

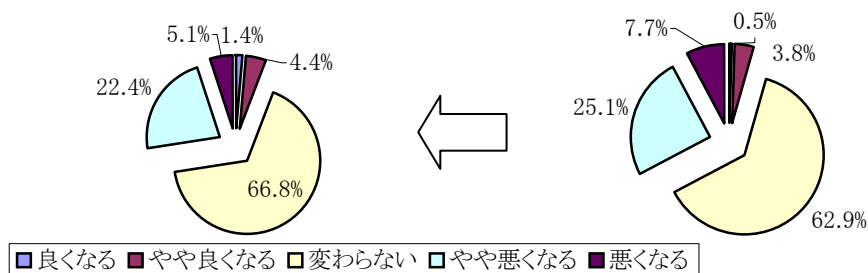
# 2013年秋「消費者の暮らし向きに関するアンケート」調査結果

## 【1】今後半年間の消費者の暮らし

- 公益社団法人ふくい・暮らしの研究所の調査(2013年9月実施、回答数:947)によると、今後半年間の消費者の「暮らし向き」は、今春調査と比べて向上しています。特に、35歳未満の子育て層の「暮らし向き」は、他世代よりも良くなっています。ただし、「収入」の増加は厳しく、「支出」はできるだけ抑えようとしている傾向が見られます。また、家計費目別では、多くの費目でシニア層の支出を減らす傾向が強くなっています。
- 今後半年間の旅行の予定は、「ない」が「ある」を上回り、前年調査より「ない」の比率が高くなっています。ただし、旅費は増えており、「安近短」一辺倒ではなくなってきました。
- 「貯蓄をしている」方が多く、1世帯当りの貯蓄額も増加しています。貯蓄の目的は、高齢層では「老後の生活のため」「病気などの不時の災害に備えて」、若年層では「教育資金」「土地、住宅資金」が多くなっています。
- 冬のボーナスは、子育て層やファミリー層で『出そうだ』が約60%の高率となっています。ボーナスでの購入予定品は、婦人服・洋品や紳士服・洋品、子供服・ベビー服が多くなっています。
- お歳暮を「贈る」方は、子育て層で25.2%、シニア層で68.3%と若年層のお歳暮離れが目立ちます。お歳暮予定品では、ハムやビール、日本酒・地酒、洋菓子詰合せが多くなっています。お歳暮、もらって嬉しいもの第1位は商品券・ギフト券、もらって嬉しくないもの第1位は菓子・スイーツとなっています。

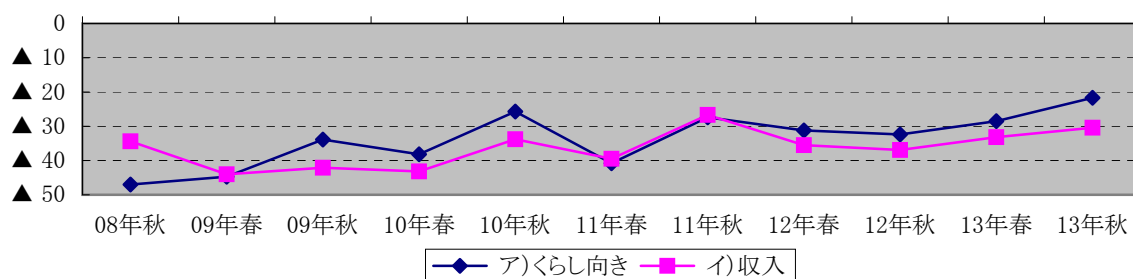
図表01 「暮らし向き」13年秋調査(D. I. 値▲21.7)

図表02 「暮らし向き」13年春調査(D. I. 値▲28.5)



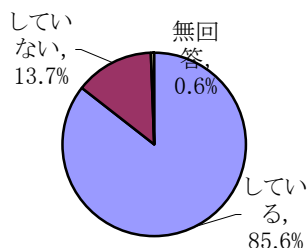
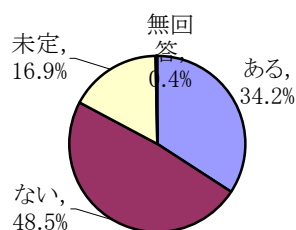
図表03 暮らし向き、収入のD. I. 値経年変化

※08年秋:リーマンショック、11年春:東日本大震災



図表04 旅行の予定

図表05 貯蓄について



図表06 年代別回答比率(冬のボーナス、今年のお歳暮)

	冬のボーナス				今年のお歳暮		
	出そうだ	出そうにない	出ない	わからない	贈る	贈らない	未定
子育て層	62.3%	15.6%	9.7%	12.3%	25.2%	65.8%	9.0%
ファミリー層	60.1%	15.3%	14.1%	10.5%	43.1%	47.3%	9.6%
シニア層	19.3%	13.1%	59.4%	8.2%	68.3%	23.4%	8.3%

図表07 ボーナスでの購入予定品ベスト10

1位	婦人服・洋品
2位	紳士服・洋品
3位	子供服・ベビー服
4位	化粧品
5位	スタッドレスタイヤ
6位	贈答品
7位	靴
8位	おもちゃ・ゲーム機
9位	携帯電話、スマートフォン
10位	ハンドバック・かばん

図表08 お歳暮予定商品ベスト10

1位	ハム
2位	ビール
3位	日本酒・地酒
4位	洋菓子詰合せ
5位	かに
5位	その他
7位	米
8位	そば
8位	珈琲
10位	農産加工品

図表09 お歳暮もらって嬉しいもの

1位	商品券・ギフト券
2位	洗剤
3位	食品類
4位	ビール
5位	果物・フルーツ
6位	食用油
7位	ハム・チーズセット
8位	日用品
9位	菓子・スイーツ
10位	牛肉

図表10 お歳暮もらって嬉しくないもの

1位	菓子・スイーツ
2位	洗剤
3位	日本酒・地酒
3位	特になし、ない
5位	酒類
5位	石鹸
7位	衣類・タオル
8位	ギフトカタログ
9位	ハム・チーズセット
10位	調味料詰合せ

## 【2】生活や食、環境、福祉について

「家族みんなが楽しむために、よく外食する」や「将来の社会福祉政策充実のため、重い税負担は仕方がない」の平均点数が上昇し、「これ以上の税負担は耐えられない」や「少々不便でも、積極的に省エネに協力したい」は低下しました。

図表11 生活等への意識

区分	項目	平均点数		
		13年秋	13年春	差異
生活・暮らし	A. 家族の一体感や絆を深めることを第一に考えている	77.2	76.7	0.5
	B. 自分で自由に使える時間は、家で過ごすのが好きなほうだ	65.4	64.8	0.6
	C. 余暇は、家族サービスや旅行で過ごすことにしている	57.2	54.6	2.6
	D. 家族みんなが楽しむために、よく外食する	49.0	43.3	5.7
	E. 家計にゆとりがあった場合、消費するよりも貯金しておく	70.6	68.9	1.7
食・農業	A. 多少値段が高くても安全・安心な食品を購入する	75.8	74.8	1.0
	B. 家計のため低価格の食品を探して購入する	59.3	57.0	2.3
	C. 多少値段が高くても地産地消を大切にす	65.1	64.1	1.0
	D. 輸入農産物は敬遠する	73.0	69.4	3.6
	E. 風評被害が心配だが、高放射線量産地の食品は手が出ない	69.4	66.4	3.0
災害・環境	A. 自然の脅威の前では人の力には限界があり、どうしようもない	82.0	79.7	2.3
	B. 我が家の災害に対する備えは十分である	48.8	44.7	4.1
	C. 少々不便でも、積極的に省エネに協力したい	66.2	67.2	▲ 1.0
	D. 災害ボランティア活動には積極的に参加したいと思う	53.9	52.0	1.9
エネルギー	A. 経済性重視の、安定供給可能なエネルギー政策を取るべきだ	63.7	61.1	2.6
	B. 安全性重視の、リスクの少ないエネルギー政策を取るべきだ	74.7	74.1	0.6
福祉・税金	A. 将来の社会福祉政策充実のため、重い税負担は仕方がない	60.6	56.0	4.6
	B. これ以上の税負担は耐えられない	65.4	66.5	▲ 1.1
	C. 高齢化対策(年金制度等)の充実を図る必要がある	69.5	69.2	0.3
	D. 少子化対策(育児支援制度等)の充実を図る必要がある	72.6	73.4	▲ 0.8
地域	A. 自治会、社会奉仕等地域の行事には積極的に参加したい	64.9	-	-
	B. 地域の公民館や集会場、公園を積極的に利用したい	63.0	-	-
	C. 地域の子供会や青年会、婦人会、老人会等に参加したい	58.9	-	-
	D. 自治会やPTA等地域の役員をしたくない	66.0	-	-
	E. もっと、地域(町)づくりを考えるグループやNPOを作るべきだ	56.8	-	-

◇このアンケート調査結果の詳細は、(公社)ふくい・くらしの研究所 高井・大西

TEL:0776-52-0626 までお問い合わせ下さい。